

緑地レクリエーションの計画的研究 第6報

旅行レクリエーションの家族階層による研究

近 藤 公 夫

Planning Studies on Recreations in Greens (Report 6)

Studies on Recreational Tour with Viewpoint of Home Economics, as a Background Study of Recreational Habitation in Greens

Kimio KONDO

目 次

要 旨	171	自然リゾートへの単日休養	185
緒 言	172	都市リゾートへの単日休養	185
実態の調査における統計的意義	173	総合的考察	186
調査分析の手段	174	おわりに	189
調査結果から得られる若干の結論	182	参考文献	190
自然リゾートへの宿泊旅行	182	Résumé	190
都市リゾートへの宿泊旅行	183		

要 旨

緑地 recreation はその持れたる場により、日常生活圏の例と非日常生活圏（広域生活圏）の例に大別され、後者は経済消費をとまなう旅行 recreation という型態をとるのが通常である。

この研究報告が意図するところは、緑地 recreation 研究の分野として国民がもつこの現象の量的質的側面を解明し、またその経済的消費に注目して、それが国民家庭の経済的・教育水準的・職業的等の要因と如何に関連するかを考察するにある。

したがってこれは、「緑地レクリエーションの計画的研究第1報ないし第5報」までに試みられた緑地における実態を更に外延する研究の試行として理解されよう。

すなわち筆者は緑地と生活圏域との関連性を示す指標として、誘致率函数という觀念を提案したのであるが、この報告はその函数中の要因を実証的に解明する性質をもつ。

この問題における統計学的研究の信頼度と精度については概括的な考察を加えたに過ぎないが、その属性ないし実態における計量的要因を指標とすれば、信頼度0.90精度を常用対数値0.10以内として、属性階層毎に2桁の調査対象を把握すれば足りるものと考えられた。

調査研究結果を最も概括的に述べれば家族単位としての延日数によりつぎの通りである。

年収50万円未満の階層は自然 resort への宿泊旅行7日、単日休養5日、都市 resort へは各3日、5日で3万円を消費し、年収50万円以上100万円未満では自然 resort へ各10日、6日、都市 resort へ各4日、7日で約5万円を消費し、

年収100万円以上では自然 resort へ各13日, 7日, 都市 resort へ各6日, 7日の旅行 recreation を持ち, 7万円弱を消費する。

この他にも, 収入・教育の属性と旅行型別, 季節別および旅行実態の間には多くの関連性が認められたが, 本課題が今後の研究にまつ所の多いことは特にここで強調すべき点と考えられる。

緒 言

緑地 recreation においてその起因となる問題については多くの人々において論じられ, 筆者もそれに注目したことは本研究第1報における「recreation 欲求の人格的要因」および「recreation 欲求の生活環境的要因」の各章にもふれた所である。¹⁾

この分野は本来の性質として, 心理学・社会学・経済学等の分野に属するものであって, この分野に関する問題の集大成といわれる O.R.R.R. について見ても, この分野は landscape designer が余り直接にはふれていない。²⁾

しかしながらこの要因の解明は, その成果の上に計画を展開する landscape designer にとって極めて重要な意味をもつものであり, それが実証的に解明され得る分野については計画を中心とする分野からの研究も可能であり, それ自体に高い意義もある問題である。

この分野としてここには家計におけるレクリエーション消費を含む家族単位の休養実態をとりあげる。

この分野について, 経済学的視野等からする先例のあることは多数文献に見られる通りである。³⁾⁴⁾⁵⁾⁶⁾

しかしながらこれ等資料の結論については, 筆者が入手し得る情報と自身が実施した調査の結果および常識的に考えられる事象にてらして必ずしも全面的な肯定を下し難い。¹⁾⁷⁾⁸⁾

例えば1960年において筆者は国民の総旅行消費を0.3兆円, 単日休養を1.3億回, 宿泊旅行を0.8億回と想定すべき資料と結論を得ており, この宿泊旅行回数より単日休養回数が多いという結論は常識的にも妥当と思われるが,

経企庁の資料によれば, 同年の世帯当り単日休養普及率は40%程度, 同宿泊旅行普及率は50%程度, と逆の事情が見られ,

運輸省の資料によれば同年の都市世帯当り単日休養1.3回に対して宿泊旅行1.5回であり, 地方世帯でのみ単日休養1.3回に対して宿泊旅行1.2回という結果になっている。

この研究は当初この様な官庁統計が妥当な資料を与えるものであろうかとの疑問から出発して, 大山国立公園調査などの研究に若干の成果を収めたのであるが,

その後, 休養誘致率の研究を通じてその一般式における欲求性に関する函数にこれが大きい意味を持つこと, すなわち

$$R.E.R. = \frac{\psi_1(x) \cdot \psi_2(y)}{\tau(f \cdot m)}$$

における $\psi_1(x)$ が心理的・生活的環境から決定される要因として, そこに recreation 家計を中心とする消費経済も関連することが明らかとなり, その研究推進が必要とされる結果, ここにも本研究の重要性が考えられるに至った現状である。

いうまでもなく, recreation 行為の発現はこの問題と1次的な関連を持つものではなく, 多くの要因の相互作用の上に成立するのであるが, この問題はその要因中の重要な要素として今後になお解明の余地は大きい。

終りにこの調査に協力を頂いた奈良市立一条高校, 国立奈良学大附属中学に感謝の意を表し, 本論に移りたい。

実態の調査における統計的意義

この研究の目的を達成する手段は種々考えられ、その当初には便法として緑地の recreation 行為者から直接調査することが試みられ、ある程度の成果も得られた。⁷⁾⁹⁾

しかしこれは当然の結果として比較的多く緑地 recreation をもつ階層に偏する調査となっており、国民全般のもつ recreation 消費と実態に対する調査とは異質な結果を招く。

このような考慮の結果、筆者は学校生徒を通じてその家庭にこの種調査を実施することにより、ある程度は国民水準のこの種実態を把握できることを期待した。

その結果は奈良市内の中学・高校に子弟をもつ約 800 家族に調査票を配布し、平均約 30% の無効回答はあったが、部分的に不完全な回答を利用し得るものとすればかなりの成果を収めた。

すなわち、有効回答について見ると、回答家庭の平均年収は円単位の数値において 5.8 強であり、その変異係数は 0.13 程度となるので、この問題に関する調査の信頼度を 0.95、精度を 0.05 とする場合の必要標本数は約 30 で足り、

この研究で得た精度はしたがって、0.01 ないし 0.02 となる。¹⁰⁾

いうまでもなく、調査結果は上記の収入階層間に回答数の偏倚を来しているもので、いまここでは便宜的に設定した、年収 50 万円未満、年収 100 万円未満、年収 100 万円以上の 3 階層についてこれを検討する。

年収 50 万円未満の階層は有効回答の約 25% を占めるが、回答標本から得られた年収に関する変異係数は約 0.20 であるから、信頼度 0.95、精度 0.05 を得るために必要な調査例数は 60 をややこえるものと結論される。

したがって、別表に示す家族別の消費及び実態においては調査例数がこれよりやや少ないので、精度を 0.05 とするならば信頼度を 0.90 とし条件をみたすものとされよう。

年収 100 万円未満の階層は有効回答の約 55% を占めるが、同様に求められるこの階層の変異係数は 0.15 強であるから前述の水準を達成するために必要な調査数は 40 強でたりる。

同じく、別表に示す家族別の消費と実態の調査は調査例数がこの 2 倍に近いものであるから、この表にあっては信頼度を 0.95 とすると精度は 0.03 ないし 0.04 となるであろう。

終りに年収 100 万円以上の階層は有効回答の約 20% に当るが、ここでは年収の変異係数が 0.20 強となるので前述の水準を達成するのに必要な標本数は同様に 60 以上となる。

しかし別表の家族別消費と実態の調査はこの半数程度の回答による結論にすぎないから、この結果の精度を 0.05 と考えるためには信頼度を約 0.90 とすべきこととなる。

以上は別表を参考にすれば明らかなように、この研究発表の段階で、各家族の recreation 消費と実態がその家族戸主の教育水準及び職業に分類され、その階層別に認識されるように結果を処理する基準として考えられた。

すなわち、結果の整理に当たって行為者の属性は教育水準について義務教育・中等教育・専門高等教育の 3 水準とし、職業についていわゆる 1 次・2 次産業の他に、3 次産業を取引接遇の狭義 3 次産業及び専門管理自由業等の広義 3 次産業（この論文では 4 次産業）の 4 分類とする。

以上の収入・教育・職業の分類化によって、recreation の基盤となる家庭は 36 の分類型中に位置付けられる。

しかしこの各型に分類された結果が余り少数であっては統計上の意義に乏しいから、余り少数しか分布しない型についてはそれを統合整理する必要があると、つぎにこの整理すべき限界標本数が決定されねばならない。

この決定の基準としてここで考えるものは年収における変異係数の問題であって、階層別に収入に関する変異係数の大きい方の数値 0.20 をとりあげ、信頼度 0.90、精度 0.10 の水準に必要な標本数を

求めると12ないし13となる。

このような検討の結果、ここでは上記の数値を括約した10を以て限界標本数とした。

これは年収 50万円未満と 100万円以上の両階層に対して信頼度 0.90 における精度 0.11 を、また年収 100万円未満の階層については同じく精度 0.08 を意味し、ほぼ 0.10 の精度をみたすものとして実際上の影響はないことを推測せしめる。

なお、本来求めるべき 変異係数としては、たとえ 収入階層を基準とする分類の場合でも、旅行 recreation 実態に関する回数・日数・消費額のそれをとるべきであるが、ここでは便宜的に収入のそれをとって考え、上述の他指標の検討は別にゆずった。

調査分析の手段

前述において recreation の消費と実態は家族単位の属性において、収入・教育・職業の型態として36次元に分析することを提案したが、ここでは実態を分析する手段として、recreation 型や回数・内容に関する指標をまず説明し、その相関を通じて分析することを提案する。

すなわち実態に関する分析は旅行型・旅行季節に分類し、旅行回数・旅行日数・旅行経費及び旅行圏域について分析検討するものである。

まず旅行型については自然 resort への宿泊旅行、都市 resort への宿泊旅行、並びに自然 resort への単日休養・都市へ resort の単日休養をあげる4分類をとり、

また旅行季節は春・夏・秋・冬による分類を考えるもので、したがって旅行型と旅行季節について注目すれば各実態は16種に分類が可能となる。

この分類は研究に対する大前提に相当するものであるから、以下 recreation の実態分析にはこの基準による分析が考えられる。

旅行型別及び季節別の分類別に求められる実態は別表に示すように、

旅行回数は0回、1回、2、3回、4回以上とし、

旅行日数は0日、1日、2、3日、4日以上、11日以上、旅行消費は0円、0.1万円未満、0.3万円未満、1万円未満、3万円未満、3万円以上とし、

したがって、季節別・型別の旅行 recreation は回数が4種、日数が5種、消費が6種に分析され、その結果は120種に及ぶ分析を意味することとなる。

なお、旅行圏域については各実態を調査地域を中心とする生態的誘致距離にもとづく範囲、

最内圏は片道交通時間 60分、交通経費 100円を単位とする上述距離 3 未満、つぎの内圏は同距離値10¹¹⁾12) 未満、以下30未満、100未満、更に100以上の外圏と大別するが、これは本節の別表にはあつかわない。

なお、この圏域別における最内圏は半日ないし単日の休養圏であり、以下、単日休養圏、単日休養ないし複日宿泊旅行の圏域、複日宿泊旅行圏、多日宿泊旅行の圏域という性質のものとして理解されるであろう。

以上の結果としてつぎに示す表631は属性・recreation 型・recreation 実態を総合し、対象を数万の型に分析するものである。

ただし、recreation 型においてその類型と季節は全調査内容に共通し重複する性質のものであるから、これを基準として各例における属性と実態の関係を見るのであれば5400型の認識を得ることとなる。

この類別に対して、実在する例数は1類型1季節で約200例、粗集計において最も多い自然 resort 宿泊旅行の夏季で 100 種強にすぎず、前節にのべたように集計結果をある程度統合して考えると、その実例数は更に減少することとなる。

表-631

注意：数値は調査家族数を示す

A 自然 resort への春季宿泊旅行

実 態			階層 (年収) (教育) (職業)	50万円未満		100万円未満					100万円以上		小計	回答 不備	
				初等	中高等	初等 1,2次	初等 3,4次	中等 1,2次	中等 3次	中等 4次	高等	初中等			高等
(回数)	(日数)	(消費)													
0回	0日	0円		9	12	7	5	5	6	6	7	6	7	70	31
1回	2,3日	0.3万円 未満		2	3					1	1			7	2
		1.0万円 未満		2	2	3	2		1	1	2	4	3	20	4
		4日 以上			2				2				1	5	
2,3回	4日 以上	3.0万円 未満					2		1					3	
		1.0万円 未満						3	1	1	1	1		7	3
		3.0万円 未満		1	1	2	2			3	2	4	2	17	3
		3.0万円 以上						1				1	1	3	
		11日 以上								1	1			2	
		3.0万円 以上							1				1		
小 計				14	20	12	11	9	10	15	14	16	14		43
回答不備				1			1	1		1	3				15

B 自然 resort への夏季宿泊旅行

実 態			{(年収) 50万円未満 (教育) 初等 中高等 (職業) 1,2次 3,4次 1,2次 3次 4次}	100万円未満							100万円以上		小計	回答 不備
				初等	初等	中等	中等	中等	高等	初中等	高等			
(回数)	(日数)	(消費)												
0回	0日	0円	8	9	5	4	4	4	6	3	4	4	51	23
1回	2,3日	0.3万円 未満		3	2	1	1	3		1	1	2	14	3
		1.0万円 未満	2	2		2			1	2	3	2	14	3
		4日 以上	2	1	1		1		4	2			11	3
2,3回	4日 以上	3.0万円 未満			2	1			1			2	6	
		1.0万円 未満	2	3	1		1		1	1			9	4
		3.0万円 未満		1		2		2	1	1	5	2	14	2
		3.0万円 以上										1	1	1
		11日 以上	3.0万円 未満		1	1	1	2	1	1	4	1		12
		3.0万円 以上									2	1	3	1
小 計			14	20	12	11	9	10	15	14	16	14		43
回答不備			1			1	1		1	3				15

C 自然 resort への秋季宿泊旅行

実 態			階層 (年収) (教育) (職業)	50万円未満		100万円未満					100万円以上		小計	回答 不備	
				初等	中高等	初等	初等	中等	中等	中等	高等	初中等			高等
(回数)	(日数)	(消費)				1,2次	3,4次	1,2次	3次	4次					
0回	0日	0円		7	13	9	6	6	5	6	8	5	5	70	17
1回	2,3日	0.3万円 未満		2	1	1				2				6	1
		1.0万円 未満		2	2	1		1	1	5	2	2	3	19	7
		4日 以上		1	2	1	3			1		1	2	10	8
	2,3回	3.0万円 未満							1				1	1	3
4日 以上								1		1	1	1		4	1
3.0万円 未満				2		1			2		2	5	2	14	5
3.0万円 以上						1			1			1		3	
11日 以上			1								1			2	2
		3.0万円 以上		1						1			1	3	
小 計				14	20	12	11	9	10	15	14	16	14		43
回答不備				1			1	1		1	3				15

D 自然 resort への冬季宿泊旅行

実 態			{(年収) 50万円未満 (教育) 初等 中高等 (職業) 1,2次 3,4次 1,2次 3次 4次	100万円未満		100万円以上		100万円以上		100万円以上		小計	回答 不備	
				初等	初等	中等	中等	中等	高等	初中等	高等			
(回数)	(日数)	(消費)												
0回	0日	0円	8	17	5	7	6	7	12	10	9	7	88	31
1回	2,3日	0.3万円未満		1	1		1				1		4	1
		1.0万円未満	1	2	3	2		1	3	1	3	3	19	6
		4日以上			1					1		1	3	1
2,3回	4日以上	3.0万円未満										1	1	
		1.0万円未満	2			1		1		1			5	2
		3.0万円未満	3		2			1		1	1	1	9	1
	11日以上	3.0万円以上					1				1		2	
		3.0万円未満				1							1	1
		3.0万円以上					1				1	1	3	
小 計		14	20	12	11	9	10	15	14	16	14		43	
回答不備		1			1	1		1	3				15	

E 都市 resort への春季宿泊旅行

実 態	階層 (教育) (職業)	(年収) 50万円未満 100万円未満	100万円未満					100万円以上		小計	回答 不備			
			初等 1,2次	初等 3,4次	中等 1,2次	中等 3次	中等 4次	高等	初中等 高等					
(回数)	(日数)	(消費)												
0回	0日	0円	11	10	5	8	8	5	11	6	10	2	76	14
1回	2,3日	0.3万円 未満		1						2	1		4	
		1.0万円 未満	1		2			2		1	1	7	2	
		4日 以上		1			1			1	3			
	2,3回	3.0万円 未満			1	1		1					3	
		4日 以上	1.0万円 未満						1			3	4	
3.0万円 未満				1	1					1	3	1		
		3.0万円 以上		1					1			2		
小 計			12	13	9	10	8	6	15	9	12	8		17
回答不備			3	7	3	2	2	4	1	8	4	6		41

F 都市 resort への夏季宿泊旅行

実 態	階層 (教育) (職業)	(年収) 50万円未満 100万円未満	100万円未満					100万円以上		小計	回答 不備			
			初等 1,2次	初等 3,4次	中等 1,2次	中等 3次	中等 4次	高等	初中等 高等					
(回数)	(日数)	(消費)												
0回	0日	0円	12	10	8	8	6	3	11	6	9	4	77	16
1回	2,3日	0.3万円 未満		1					1	2		2	6	
		1.0万円 未満		1		2		1	1	1	2	1	9	
		4日 以上	1.0万円 未満				1						1	
	2,3回	3.0万円 未満						2					1	3
4日 以上		1.0万円 未満					1		1				2	
		3.0万円 未満					1		1				2	1
		11日 以上	3.0万円 未満		1							1		2
小 計			12	13	9	10	8	6	15	9	12	8		17
回答不備			3	7	3	2	2	4	1	8	4	6		41

G 都市 resort への秋季宿泊旅行

実 態	階層	(年収) (教育) (職業)	50万円未満		100万円未満		中等	中等	中等	高等	100万円以上		小計	回答 不備
			初等	中高等	初等	初等	中等	中等	中等	高等	初中等	高等		
(回数)	(日数)	(消費)			1,2次	3,4次	1,2次	3次	4次					
0回	0日	0円	10	6	8	8	6	3	5	6	6	4	62	16
1回	2,3日	0.3万円 未満		1	1				1	2	2	2	9	
		1.0万円 未満		1		1		2	6			1	11	
	4日 以上	1.0万円 未満	2	2									4	
		3.0万円 未満					1	1				1	3	
2,3回	4日 以上	1.0万円 未満		2							1		3	
		3.0万円 未満				1	1		3		2		7	1
		3.0万円 以上								1			1	
	11日 以上	3.0万円 未満									1		1	
小 計			12	12	9	10	8	6	15	9	12	8		17
回答不備			3	8	3	2	2	4	1	8	4	6		41

H 都市 resort への冬季宿泊旅行

実 態	階層	(年収) (教育) (職業)	50万円未満		100万円未満		中等	中等	中等	高等	100万円以上		小計	回答 不備
			初等	中高等	初等	初等	中等	中等	中等	高等	初中等	高等		
(回数)	(日数)	(消費)			1,2次	3,4次	1,2次	3次	4次					
0回	0日	0円	11	12	7	9	8	5	12	8	12	8	94	17
1回	2,3日	1.0万円 未満	1			1	1	2					5	
	4日 以上	1.0万円 未満		1	1								2	
2,3回	4日 以上	1.0万円 未満			1					1			2	
	11日 以上	3.0万円 未満						1					1	
小 計			12	13	9	10	8	6	15	9	12	8		17
回答不備			3	7	3	2	2	4	1	8	4	6		41

I 自然 resort への春季夏季単日休養

		階層 実態	(年収) (教育) (職業)	50万円未満		100万円未満			中等 4次	高等	100万円以上		小計	回答 不備	
				初等	中高等	初等 1,2次	初等 3,4次	中等 1,2次			中等 3次	初中等			高等
春季	(回数)	(消費)													
	0回			3	2	4	1	3	1	4	3	4	1	26	7
	1回	0.1万円 未満		5	3	3	5	1	2	1		2	4	26	5
		0.3万円 未満			1					1	1			3	
	2,3回	0.3万円 未満		4	4	4	5	2	1	3	3	2	4	32	10
		1.0万円 未満									1			1	
	4,5,6回	1.0万円 未満			2	1	1	1	2	5	4	5	1	22	4
		3.0万円 未満			1			1					1	3	2
夏季	(回数)	(消費)													
	0回			3	7	3	6	3	1	7	5	3	6	44	11
	1回	0.1万円 未満		3	4	3		2	2	3	2	2	2	23	5
		0.3万円 未満									1			1	
	2,3回	0.3万円 未満		2	1	3	2	1	3	1	3	1	1	18	5
		1.0万円 未満								1	1			2	1
	4,5,6回	1.0万円 未満		3	1	3	3	2		2		7	1	22	4
		3.0万円 未満		1			1						1	3	2
	小計			13	13	12	12	8	6	14	12	13	11		28
	回答不備			2	7	0	0	2	4	2	5	3	3		30

J 自然 resort への秋季冬季単日休養

		階層 実態	{(年収) (教育) (職業)}	50万円未満		100万円未満				高等	100万円以上		小計	回答 不備	
				初等	中高等	初等 1,2次	初等 3,4次	中等 1,2次	中等 3次		中等 4次	初中等			高等
秋季	(回数)	(消費)													
	0回	0円		5	6	4	3	5	2	3	3	3	7	41	6
	1回	0.1万円 未満		5	3	2	1	2	2	4	3	1	23		12
		0.3万円 未満		1				2			1		4		3
	2,3回	0.3万円 未満		1	2	4	4		2	4	1	4	1	23	3
		1.0万円 未満											1	1	
	4,5,6回	1.0万円 未満			2	2	4	1	1	3	4	3	1	21	3
		3.0万円 未満		1					1					2	1

	階層 実態	{(年収) (教育) (職業)}	50万円未満		100万円未満		中等	中等	中等	高等	100万円以上		小計	回答 不備
			初等	中高等	初等	初等	中等	中等	中等	高等	初中等	高等		
	(回数)	(消費)			1,2次	3,4次	1,2次	3次	4次					
冬季	(回数)	(消費)												
	0回	0円	10	6	11	10	7	4	7	11	11	9	86	21
	1回	0.1万円 未満	1	5			1		2			1	10	2
		0.3万円 未満			1				1		1		3	2
	2,3回	0.3万円 未満	1	2		1		2	3	1	1	1	12	2
		1.0万円 未満	1			1			1				3	1
小	計		13	13	12	12	8	6	14	12	13	11		28
回答	不備		2	7	0	0	2	4	2	5	3	3		30

K 都市 resort への春季夏季単日休養

	階層 実態	{(年収) (教育) (職業)}	50万円未満		100万円未満		中等	中等	中等	高等	100万円以上		小計	回答 不備
			初等	中高等	初等	初等	中等	中等	中等	高等	初中等	高等		
	(回数)	(消費)			1,2次	3,4次	1,2次	3次	4次					
春季	(回数)	(消費)												
	0回	0円	8	2	1	2	5	3	6	3	1	2	33	9
	1回	0.1万円 未満	2	3	1	3	3	2		1	1	3	19	6
		0.3万円 未満		1	1								2	
	2,3回	0.3万円 未満	4	5	2	2		1	3	4	5	1	27	6
		1.0万円 未満		1									1	1
	4,5,6回	1.0万円 未満		1	4	1	1	1	2	3	4	1	18	3
		3.0万円 未満	1						1	1	1		4	3
夏季	(回数)	(消費)												
	0回	0円	8	10	5	4	6	3	5	2	4	4	51	9
	1回	0.1万円 未満	1			1	2	3	3	2	2	1	15	8
		0.3万円 未満		1									1	
	2,3回	0.3万円 未満	5	1	2	3	1		3	4	3	1	23	7
		1.0万円 未満							1	1		1	3	1
	4,5,6回	1.0万円 未満	1	1	1			1		3	3		10	3
		3.0万円 未満			1								1	
小	計		15	13	9	8	9	7	12	12	12	7		28
回答	不備		0	7	3	4	1	3	4	5	4	7		30

L 都市 resort への秋季冬季単日休養

実態	階層 (教育) (職業)	(年収) 50万円未満		100万円未満						100万円以上		小計	回答 不備
		初等	中高等	初等	初等	中等	中等	中等	高等	初中等	高等		
		1,2次	3,4次	1,2次	3,4次	1,2次	3次	4次					
秋季	(回数)(消費)												
	0回 0円	6	4	4	3	4	1	5	3	3	2	35	13
	1回 0.1万円未満	3		1		1	2	1	4	2	3	17	4
	0.3万円未満	1	1	1						2		5	3
	2,3回 0.3万円未満	1	5	1	4	1	3	5	1	1	1	23	3
	1.0万円未満	1	1			1				1		4	1
	4,5,6回 1.0万円未満	2	2	1	1	2	1	1	2	3		15	3
	3.0万円未満	1		1					2		1	5	1
冬季	(回数)(消費)												
	0回 0円	12	12	7	6	8	5	9	8	8	7	82	23
	1回 0.1万円未満	1		1	2	1	2		3	1		11	2
	0.3万円未満									1		1	
	2,3回 0.3万円未満	1	1	1				2	1	1		7	2
	1.0万円未満	1						1		1		3	1
	小 計	15	13	9	8	9	7	12	12	12	7		28
	回答不備	0	7	3	4	1	3	4	5	4	7		30

更にこの調査においては、将来に希望する旅行種の研究も加えて行なった。

その結果を上述の旅行型別及び家族の階層別に整理すると表-632の通りとなる。

表-632

注意：数値は下から2行目をのぞき人数を示す。

実 態	階層 { (年収) (教育)	50万円未満		100万円未満			100万円以上		回答 不備	小計
		初等	中高等	初等	中等	高等	初中等	高等		
(旅 行 種 別)										
(A型)自然休養地宿泊旅行		24	30	41	75	25	31	28	42	(296)
(B型)都市休養地宿泊旅行		4	2	7	5	6	5	9	2	(40)
(C型)自然休養地単日伏養		10	7	14	23	5	7	5	26	(97)
(D型)都市休養地単日伏養		15	6	7	16	8	8	6	11	(77)
不 明		15	19	16	26	24	6	12	145	(263)
小 計(人数)		68	64	85	145	68	57	60	226	(773)
家 族 数		15	20	24	36	17	16	14	62	(204)
家族平均人数		4.5	3.2	3.5	4.0	4.0	3.6	4.3		

調査結果から得られる若干の結論

前述した所によって調査対象の性質は略々知られるが、収入・教育・職業について更に略述すれば、前節の数表に示す約200家族についての有効回答140強がもつ内容はつぎの通りである。

収入は平均年収70万円程度であって、対数標準偏差による68%分布域は40ないし120万円を占め、全国平均を上廻る。

教育については初等教育約35%、中等教育が約45%、高等教育が約20%で、平均教育年数約11年、この点でも全国平均より著しく高い。

職業の点では1次産業約15%、2次産業約10%、3次産業約35%、4次産業（内容については前述）約40%の分布で、高次産業への偏りが大きい。

また家族数では収入50万円未満の層で約3.8人平均、100万円未満の層で3.9人強平均、100万円以上で3.9人平均、すなわち、全層を通じて家族数はほぼ平均していると結論される。

これは、調査が奈良市立高校の在生学生を通じてなされた関係から、全国平均より高所得・高教育水準・高次産業職業に偏する結果を招いたものと考えられる。

しかし、この偏倚をもつ資料の研究にあってもそれを収入・教育・職業等の属性毎に把握する階層分析を試みるのであれば、これを通じてより広い範囲に外延し得る基準が求められよう。

調査結果数の差によってその属性から区分される階層間に精度ないし信頼度の差異は当然あるけれども、これを容認するか何等かの調整を加えればこの考えに支障はすくなくなろう。

ここでは主として表-631の示す内容により、各型の旅行 recreation の実態を分析してより明確に認識し、あるいは緑地空間の休養計画に資し得る基準探究のため考察を加える。

なお、つぎに表-632に示す収入別及び教育水準別階層が示す旅行 recreation の希望的将来像について説明を試みておく。

年収50万円未満の階層は初等教育水準の有効回答53人について、5%括約値を用いれば、表示のA型45%、D型30%が主であり、中高等教育水準では同45人で、A型65%、C、D型各15%である。

つぎに年収100万円未満の階層では同じく初等教育水準の69人でA型60%、C型20%、中等教育水準の119人でA型65%、C型20%、高等教育水準ではA型55%、D型20%を44人に求め得る。

終りに年収100万円以上の階層は初中等教育水準の51人にA型60%、D型15%、高等教育の48人にはA型60%、B型20%が得られる。

以上を概括すると希望型と収入の関係は収入増がA型増を55%から60%へ結果し、B型も5%から10%へ増大するが、C型は15%前後で特定の増減なく、D型は25%から15%へと減少の傾向をみせ、

希望型と教育水準の関係では初等教育に準ずるもの171人についてA型55%から中等教育190人のA型55%、高等教育92人の60%と教育水準向上がA型増を来し、B型も5%から15%へ増大するが、C型は15%から10%へまたD型は25%から15%へ減少し、

収入増・教育水準向上が宿泊旅行増を意味する傾向をはば認め得るようである。

この分析については家族単位より個人単位の問題となるので、以上の属性分析のみでは不完全な点を免れないが、これについては別の機会にふれたい。

自然リゾートへの宿泊旅行

この旅行 reaction が調査した諸型の中で最も希望される型であることは、調査対象が都市ないしその周辺に居住する家庭であるため当然の結果であるとも考えられるが、

表-641

注意：平均A, B, Cは収入別3階層に対応する。

実態	階層 (年収) (教育) (職業)	50万円未満		100万円未満					100万円以上			平 均		
		初等	中高等	初等 1,2次	初等 3,4次	中等 1,2次	中等 3次	中等 4次	高等	初中等	高等	A	B	C
春季	回数(回)	0.3	0.5	0.7	0.8	1.1	0.6	0.8	0.9	1.2	0.9	0.4	0.8	0.9
	日数(日)	1.1	1.5	1.8	2.6	2.7	2.0	2.3	2.1	3.0	2.3	1.3	2.2	2.8
	消費(万円)	0.2	0.2	0.4	0.6	0.6	0.5	0.9	0.5	0.9	0.6	0.2	0.6	0.8
夏季	回数(回)	0.6	0.9	0.8	1.0	1.1	1.0	0.9	1.4	1.2	1.1	0.8	1.1	1.2
	日数(日)	2.0	2.8	3.6	3.3	4.0	3.4	3.7	5.7	5.0	3.8	2.5	4.0	4.4
	消費(万円)	0.2	0.4	0.5	0.9	0.7	0.6	0.7	1.5	1.2	1.2	0.3	0.8	1.2
秋季	回数(回)	0.7	0.5	0.3	0.7	0.5	1.1	0.7	0.9	1.3	1.0	0.6	0.7	1.2
	日数(日)	2.9	1.6	0.9	2.7	1.6	2.8	2.0	2.1	2.6	2.9	2.2	2.0	2.8
	消費(万円)	0.5	0.3	0.2	0.7	0.3	1.2	0.3	0.5	1.1	0.9	0.4	0.5	1.0
冬季	回数(回)	1.0	0.2	0.8	0.6	0.7	0.6	0.2	0.5	0.7	0.7	0.5	0.6	0.7
	日数(日)	2.3	0.5	2.3	2.2	2.4	1.4	0.5	1.5	2.5	2.7	1.3	1.8	2.6
	消費(万円)	0.3	0.1	0.4	0.3	0.9	0.3	0.1	0.2	0.8	0.7	0.2	0.4	0.8
小計	回数(回)	2.6	2.1	2.6	3.1	3.4	3.3	2.6	3.7	4.4	3.7	2.3	3.2	4.0
	日数(日)	8.3	6.4	8.6	10.8	10.7	9.6	8.5	11.4	13.1	10.7	7.3	10.0	12.6
	消費(万円)	1.2	1.0	1.5	2.5	2.5	2.6	2.0	2.7	4.0	3.4	1.1	2.3	3.8

何れにせよ重要な旅行 reaction 型であり、後述するように家計におけるこの種消費もこれに関係するものが最も高い傾向にあることもこれを裏書きする。

つぎに表-631の分析結果を整理すると表-641の通りとする。

収入階層別に要約すると、年収50万円未満の階層は家計の約3%をこの種 recreation に消費し、1人当たり1.9日の外出となり、

年収100万円未満では家計の3%強を消費して1人当たり2.6日を外出し、

年収100万円以上では家計の約3%を同じく消費して1人当たり3.2日の外出となる。

また季節的消長については春季が回数0.4ないし0.9回で日数1.3ないし2.8日、夏季には最も多くて0.8ないし1.2回となり、2.5ないし4.4日を数え、

秋季には0.6ないし1.2回で日数は2.0ないし2.8日、冬季は最も少なくても0.5ないし0.7回で1.3ないし2.6日となる。

したがってその中間値をとれば夏季を1.0として、秋季0.7、春季0.6、冬季0.5となり、わが国の自然 resort 利用量の現状が明らかとなる。

なお、これから1旅行の日数平均を求めると、収入階層別についてその低いものから、3.2日、3.1日、3.2日となって大差ないが、季節別では春季の3.2日、夏季の3.4日、秋季の2.8日、冬季の3.1日という結果で、夏季に比較的長期の旅行が多いことも知られ、

1旅行当りの消費平均については、収入階層別に同じく0.5万円、0.7万円、1.0万円で高収入の階層ほど高額となり、季節別では春季0.8万円、夏季0.7万円、秋季0.7万円、冬季0.7万円となる。

この種旅行 recreation に対する欲求の階層別比較は更に別に試みたい。

都市リゾートへの宿泊旅行

表-632によると比較的高収入・高教養の階層が好む旅行型としてうけとられ、今後の国民生活水準の向上によりその増大が予想される。

表-631の分析結果から得られるものが表-642であって、つぎの傾向を示す。

収入階層別については、年収50万円未満の層は家計の約2%を消費して1人当たり0.8日の外出を行ない、

年収100万円未満の層は家計の約1.5%を消費して1人1.0日の外出をし、

年収100万円以上の層は家計の1%程度を消費して1人1.5日の外出をしている。

季節的な消長については春季が回数0.2ないし0.8回で0.7ないし2.0日、夏季が0.2ないし0.4回で0.6ないし1.6日を数え、

秋季は最も多くて0.5ないし0.8回、日数は1.3ないし2.5日となり、冬季は最も少なくても0ないし0.2回で0ないし0.7日である。

さきに自然 resort で夏季の中間日数4.0を1.0として中間値の比較を試みたが、これを基準に都市 resort への宿泊旅行量を考えると、秋季0.5、春季・夏季各0.3、冬季0.1となってその季節的変化を知ると共に、自然 resort への旅行欲求量に対し都市 resort のそれは40%強にとどまることを結論し得る。

さきと同様に1旅行の日数平均を求めると、収入の低いものから3.3日、2.8日、および3.1日であり、1旅行当りの経費は0.8万円、0.8万円、0.6万円となって、自然 resort への宿泊旅行で見られたような特定の傾向を必ずしも示さない。

また季節別の旅行期間とその消費については、旅行例のみについて春季が3.1日で0.8万円消費、夏季が2.8日で0.7万円、秋季が3.0日で0.6万円、冬季は標本に乏しいのであるが3.4日で0.6万円となり、冬季をのぞくと、自然 resort への旅行と比較してその日数、経費ともに平均としてやや低い数値となり、

ただ夏季のみ、日数で20%程度のやや大きい差異を来している。

なお、この日数3日経費0.7万円という両宿泊旅行の平均値からその内容を想定すると、2泊の経費は0.3ないし0.4万円と仮定されるので雑費を10ないし20%として、交通費0.2ないし0.3万円で行動できる圏域は、鉄道距離200ないし300km圏が行動圏と考えられ、

表-642

注意：平均A, B, Cは収入別3階層に対応する。

実態	階層 (教育) (職業)	(年収) 50万円未満		100万円未満					100万円以上		平 均			
		初等	中高等	初等	初等	中等	中等	中等	高等	初中等	高等	A	B	C
		1,2次	3,4次	1,2次	3次	4次								
春季	回数(回)	0.1	0.3	0.6	0.3	0	0.2	0.4	0.5	0.2	1.5	0.2	0.3	0.8
	日数(日)	0.2	1.1	1.9	1.2	0	1.0	0.9	1.0	0.3	4.1	0.7	1.1	2.0
	消費(万円)	0.1	0.4	0.5	0.4	0	0.3	0.2	0.5	0.1	0.6	0.3	0.4	0.3
夏季	回数(回)	0	0.4	0.3	0.2	0.4	0.5	0.5	0.3	0.3	0.5	0.2	0.4	0.4
	日数(日)	0	1.2	0.7	0.5	1.5	1.4	1.1	0.8	1.6	1.6	0.6	0.9	1.6
	消費(万円)	0	0.4	0.2	0.1	0.2	0.7	0.2	0.1	0.4	0.3	0.2	0.3	0.3
秋季	回数(回)	0.2	0.7	0.1	0.3	0.4	0.5	1.0	0.5	1.0	0.5	0.5	0.5	0.8
	日数(日)	1.0	2.4	0.3	0.9	1.5	1.8	2.0	1.2	3.1	1.7	1.7	1.3	2.5
	消費(万円)	0.1	0.3	0.0	0.2	0.4	0.3	0.6	0.5	0.8	0.3	0.2	0.3	0.6
冬季	回数(回)	0.1	0.1	0.5	0.1	0	0.2	0.3	0.3	0	0	0.1	0.2	0
	日数(日)	0.2	0.4	1.3	0.3	0	0.4	1.3	0.7	0	0	0.3	0.7	0
	消費(万円)	0.1	0.0	0.1	0.1	0	0.1	0.2	0.1	0	0	0.1	0.1	0
小計	回数(回)	0.4	1.5	1.5	0.9	0.8	1.4	2.2	1.6	1.5	2.5	1.0	1.4	2.0
	日数(日)	1.4	5.1	4.2	2.9	3.0	4.6	5.3	3.7	5.0	7.4	3.3	4.0	6.1
	消費(万円)	0.3	1.1	0.8	0.8	0.6	1.4	1.2	1.2	1.2	1.2	0.8	1.1	1.2

具体的には奈良を中心として、東は浜名湖周辺まで、南は紀伊半島全域を含み、西は徳島・高松・岡山倉敷周辺及び鳥取周辺を連ねる線、北は石川県下までという地域、がそれに想定されることとなる。

自然リゾートへの単日休養

この種 recreation は観光産業の視野ではあまり注目されないこと等の理由から比較的軽視され、また従来の統計資料によればその回数ないし経験率も宿泊旅行より低いものと考えられていた。

表-631の結果をまとめると表-643が得られるが、これによって得られる結論をつぎに要約する。

収入階層別では年収50万円未満の層では家計の2%弱、年収100万円未満の層は同じく約1%、年収100万円以上の層は同じく1%弱がそれぞれこのrecreation消費にあてられ、季節別の変化では春季の1.7ないし2.6回(平均2.2回)を最大にして、夏季の1.8ないし2.3回(平均1.9回)、秋季の1.1ないし2.1回(平均1.8回)、冬季の0.3ないし0.6回(平均0.4回)を最小とする分布をとる。

この結果から見ると、この種の単日休養においては収入その他の属性と実態との間には収入増にともない5回から7回までの回数増がある以外は特長に乏しい。

表-643

注意：平均A, B, Cは収入別3階層に対応する。

実態	階層 (教育) (職業)	(年収) 50万円未満		100万円未満						100万円以上		平均		
		初等 中高等		初等	初等	中等	中等	中等	高等	初中等	高等	A	B	C
				1,2次	3,4次	1,2次	3次	4次						
春季	回数(回)	1.2	2.2	1.5	2.0	2.3	2.5	2.8	2.9	2.8	2.3	1.7	2.3	2.6
	消費(万円)	0.1	0.3	0.1	0.2	0.4	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.2	0.2	0.3
夏季	回数(回)	2.5	1.0	2.2	2.4	2.0	1.7	1.3	1.1	3.5	1.0	1.8	1.8	2.3
	消費(万円)	0.3	0.1	0.2	0.3	0.2	0.1	0.2	0.1	0.4	0.2	0.2	0.2	0.3
秋季	回数(回)	1.1	1.1	2.0	2.0	1.0	2.5	2.2	2.3	2.5	1.1	1.1	2.1	1.9
	消費(万円)	0.2	0.1	0.2	0.3	0.1	0.4	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2
冬季	回数(回)	0.4	0.8	0.1	0.4	0.1	0.8	1.0	0.2	0.3	0.3	0.6	0.4	0.3
	消費(万円)	0.1	0.0	0.0	0.1	0.0	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0	0.1	0.1	0.0
小計	回数(回)	5.2	5.1	5.8	6.8	5.4	7.5	7.3	6.5	9.1	4.7	5.2	6.6	7.1
	消費(万円)	0.7	0.5	0.5	0.9	0.7	0.9	0.8	0.6	0.9	0.7	0.7	0.7	0.8

なおこの単日休養1回当りの経費に注目すると、別に表-645でもふれるが、収入階層と関係なく1.1ないし1.3千円の範囲を68%分布域と認め得るようであり、

季節的变化についても、春季には1.0千円、夏季には1.2千円、秋季には1.1千円、となり、信頼度の低い冬季をのぞいては変化もすくない。

なお経験率については同種 resort を訪れる宿泊旅行の平均で0.6であるが、この場合は0.8となり、その関係は表-647にも見られる通りである。

都市リゾートへの単日休養

この種のrecreationに対する研究は特にその例が少ないが、表-631よりまとめた表-644についてつぎのことが知られる。

収入階層別では年収50万円未満の層で家計の2%弱、年収100万円未満の層で1%強、年層100万円以上では1%弱がこのrecreation消費にあてられ、

その金額は自然リゾートへの単日休養よりやや高く、両者の合計は各々3.5%、2%、1.5%を収入に対して占めている。

表-644

注意：平均A, B, Cは収入別3階層に対応する。

実態	階層 (年収) (教育) (職業)	50万円未満		100万円未満			100万円以上			平均		A	B	C
		初等	中高等	初等	初等	中等	中等	中等	高等	初中等	高等			
				1,2次	3,4次	1,2次	3次	4次						
春季	回数(回)	1.3	1.9	3.0	1.6	1.0	1.4	2.1	2.9	3.7	1.7	1.6	2.2	2.7
	消費(万円)	0.2	0.2	0.3	0.2	0.1	0.1	0.3	0.3	0.4	0.2	0.2	0.3	0.3
夏季	回数(回)	1.3	0.7	1.7	1.0	0.1	1.1	1.1	2.5	2.3	0.9	1.0	1.2	1.8
	消費(万円)	0.1	0.1	0.3	0.1	0.0	0.1	0.1	0.3	0.2	0.1	0.1	0.2	0.3
秋季	回数(回)	1.8	2.0	1.7	2.0	2.0	2.1	1.5	2.5	3.2	1.7	1.9	2.0	2.6
	消費(万円)	0.3	0.2	0.3	0.2	0.2	0.2	0.1	0.4	0.3	0.3	0.3	0.2	0.3
冬季	回数(回)	0.4	0.1	0.3	0.3	0.1	0.3	0.7	0.4	0.6	0	0.3	0.4	0.3
	消費(万円)	0.1	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.2	0.1	0.2	0	0.1	0.1	0.1
小計	回数(回)	4.8	4.7	6.7	4.9	3.2	4.9	5.4	8.3	9.8	4.3	4.8	5.8	7.4
	消費(万円)	0.7	0.5	1.0	0.5	0.4	0.4	0.7	1.1	1.1	0.6	0.7	0.8	0.9

季節別の変化では春季の1.6ないし2.7回(平均2.2回)が最大で、夏季には1.0ないし1.8回(平均1.3回)、秋季は1.9ないし2.6回(平均2.1回)で春季に近似し、冬季は0.3ないし0.4回(平均0.4回)で最小となり、

これは自然 resort への休養が夏に多かったのに対して、都市 resort へのそれは春秋に多いという別の分布型を意味している。

またこの種の単日休養では収入その他の属性と実態との間には、収入増とともに休養回数・休養消費ともに絶対値で増大する傾向が見られる。

しかしこの種単日休養当りの消費では収入の低い層から高い層へ1.4千円、1.3千円、1.2千円と漸減の傾向が見られ、

季節的には春季1.3千円、夏季1.4千円、秋季1.2千円となり、

自然 recreation への単日休養と同様に高収入層ほど休養回数を増大させるけれども、休養内容は変化させないことを物語ることを意味するようである。

総合的考察

本節では表-641ないし表-644で得られた結果を主に解析して、旅行 recreation の総合的把握を図る。

表-645は上述各表の季節別数値を合計したもので収入階層別につぎの要約を得る。

収入50万円未満の階層は年間20日強の旅行 recreation を持ち、収入の8%弱をこの目的に消費するが、

その内容は自然 resort への旅行が7日強で1旅行当たり0.5万円弱を使い、都市 resort へはその半分に足らぬ旅行であるが1旅行当たりでは0.7万円を消費し、

単日休養は自然、都市 resort へともに5日前後の休養を持ち、その消費は各0.1万円強であって、これは行動圏として、宿泊旅行の自然 resort の場合は平均200km、都市 resort では平均300km、単日休養では50km程度の鉄道路線距離を意味することとなる。

収入100万円未満の階層は年間26日強の旅行 recreation を持ち、収入の約7%をあて、その内容は自然 resort への宿泊旅行が約10日で1旅行当たり0.8万円を消費し、その鉄道距離圏域は平均300kmに及び、

都市 resort への旅行は約4日でその経費及び圏域は上述と等しく、

表-645

注意：平均A, B, Cは収入別3階層に対応する。

旅行型別実態	階層	(年収)	50万円未満		100万円未満						100万円以上			平 均		
		(教育)	初等	中高等	初等	初等	中等	中等	中等	中等	高等	初中等	高等	A	B	C
		(職業)			1,2次	3,4次	1,2次	3次	4次							
自然宿泊回数(回)			2.6	2.1	2.6	3.1	3.4	3.3	2.6	3.7	4.4	3.7	2.3	3.2	4.0	
日数(日)			8.3	6.4	6.8	10.8	10.7	9.6	8.5	11.4	13.1	10.7	7.3	10.0	12.6	
経費(万円)			1.2	1.0	1.5	2.5	2.5	2.6	2.0	2.7	4.0	3.4	1.1	2.3	3.8	
都市宿泊回数(回)			0.4	1.5	1.5	0.9	0.8	1.4	2.2	1.6	1.5	2.5	1.0	1.4	2.0	
日数(日)			1.4	5.1	4.2	2.9	3.0	4.6	5.3	3.7	5.0	7.4	3.3	4.0	6.1	
経費(万円)			0.3	1.1	0.8	0.8	0.6	1.4	1.2	1.2	1.2	1.2	0.7	1.1	1.2	
自然単日回数(回)			4.8	4.7	6.7	4.9	3.2	4.9	5.4	8.3	9.8	4.3	4.8	5.8	7.4	
経費(万円)			0.7	0.5	1.0	0.5	0.4	0.4	0.7	1.1	1.1	0.6	0.6	0.8	0.9	
都市単日回数(回)			5.2	5.1	5.8	6.8	5.4	7.5	7.3	6.5	9.1	4.7	5.2	6.6	7.1	
経費(万円)			0.7	0.5	0.5	0.9	0.7	0.9	0.8	0.6	0.9	0.7	0.6	0.6	0.8	
小 計 日数(日)			19.7	21.3	25.3	25.4	22.3	26.6	26.5	29.9	37.0	27.1	20.6	26.4	33.2	
経費(万円)			2.9	3.1	3.8	4.7	4.2	5.3	4.7	5.6	7.2	5.9	3.0	4.9	6.7	
宿泊旅行当日日数(日)			3.2	3.5	3.1	3.4	3.3	3.0	2.9	2.8	3.1	3.0	3.3	3.0	3.2	
宿泊旅行当日経費(万円)			0.5	0.6	0.6	0.9	0.7	0.9	0.7	0.7	0.9	0.7	0.6	0.8	0.8	
単日休養当日経費(千円)			1.4	0.9	1.2	1.3	1.3	1.1	1.2	1.1	1.1	1.4	1.2	1.2	1.2	

単日休養は自然・都市 resort へともに6日前後を数えてその消費も各0.1万円強、その圏域も上述の50km程度と考えられる。

また収入100万円以上の階層は年間33日強の旅行 recreation を持ち、収入の約5.5%をこのために支出しているが、

内容としては自然 resort への宿泊旅行が13日弱で1旅行当り1万円弱を消費し、その行動圏域は鉄道路線距離として300kmないしに400km及び、

都市 resort への旅行は約6日に著増するが、その経費は逆に1旅行当り0.6万円となって圏域としても200km程度に想定され、

単日休養では自然・都市 resort へともに7日強が持たれ、その消費及び行動圏は上述した他階層の数値に等しいこととなる。

これは家族当りの日数として考えると、以上の諸表から求められた表-646から計算して、

収入の低い階層で宿泊旅行が2.8日、単日休養が2.6日となり、

収入100万円未満では宿泊旅行が3.6日、単日休養が3.2日であり、

収入が高い階層にあっては、宿泊旅行が4.8日、単日休養が3.7日で、収入増が特に宿泊旅行増に関係するような印象を与える。

同じ表-646によればまた、家族1人当りの日数として初等教育層では自然 resort への旅行が3.8日で以下4.0日、4.5日と変化し、

都市 resort へのそれが2.3日から2.8日、2.9日となることにより、教育水準の向上が自然 resort への志向を高めるような傾向をも見せるようであるが、

しかしこれは収入増が与える同じ問題への影響のように強い関係をもつものではない。

また季節別の旅行 recreation 量について宿泊旅行関係は前述したが、さきの基準によれば単日休養は自然 resort に対して春季0.5夏季0.5秋季0.4冬季0.1、都市 resort へは春季0.6夏季0.3秋季0.5冬季0.1であって、

表-646

注意：経験率は季節毎での最多 recreation 数による。また宿泊旅行と単日休養についての上段は自然 resort, 下段は都市 resort での recreation を各々示す。

旅行型別実態	年収 階層	50万円 未満	100万円 未満	100万円 以上	教育 水準	初等	中等	高等
自然休養経験率		0.8	0.8	0.8		0.8	0.8	0.8
日数(日)		12.1	15.8	20.0		14.6	15.7	17.3
消費(万円)		1.7	3.1	4.7		2.4	3.2	3.8
都市休養経験率		0.7	0.8	0.9		0.7	0.8	0.8
日数(日)		8.5	10.6	13.2		8.7	11.1	11.3
消費(万円)		1.4	1.8	2.0		1.3	1.9	1.9
宿泊旅行経験率	{	0.5 0.3	0.6 0.4	0.7 0.5		0.5 0.2	0.5 0.4	0.8 0.4
日数(日)		10.6	14.0	18.7		11.4	14.4	17.4
消費(万円)		1.9	3.4	5.0		2.2	3.6	4.3
単日休養経験率	{	0.8 0.7	0.8 0.8	0.8 0.9		0.8 0.7	0.8 0.8	0.8 0.8
日数(日)		10.0	12.4	14.5		10.4	14.3	11.9
消費(万円)		1.2	1.5	1.7		1.3	1.7	1.5

その合計量は春季 2.0 夏季 2.1 秋季 2.1 冬季 0.8, 自然 resort では各々 1.1, 1.5, 1.1, 0.6, 都市 resort では 0.9, 0.6, 1.0, 0.2 と変動することが知られ, 前者の夏型に対し後者は春秋型の分布を示している。

終りに以上の資料から求められた旅行 recreation の経験率の問題であるが, 階層別に旅行型態季節別として整理したものが表-647であり, これを更に整理集計した結果が表-648である。

表-647

注意：数値は経験率を示す。

旅行型別実態	年収 階層	50万円 未満	100万円 未満	100万円 以上	教育 水準	初等	中等	高等
自然宿泊春季		0.4	0.4	0.5		0.4	0.4	0.5
夏季		0.5	0.6	0.7		0.5	0.5	0.8
秋季		0.4	0.4	0.7		0.4	0.5	0.5
冬季		0.3	0.3	0.5		0.4	0.4	0.4
都市宿泊春季		0.2	0.3	0.4		0.2	0.3	0.5
夏季		0.1	0.3	0.4		0.1	0.2	0.4
秋季		0.3	0.4	0.5		0.2	0.4	0.4
冬季		0.1	0.1	0		0.1	0.1	0.1
自然単日春季		0.8	0.8	0.8		0.7	0.8	0.8
夏季		0.6	0.6	0.6		0.7	0.6	0.5
秋季		0.6	0.6	0.6		0.8	0.6	0.6
冬季		0.4	0.2	0.2		0.2	0.4	0.2
都市単日春季		0.6	0.8	0.9		0.7	0.8	0.8
夏季		0.4	0.7	0.6		0.5	0.5	0.7
秋季		0.7	0.7	0.7		0.6	0.7	0.7
冬季		0.2	0.3	0.2		0.2	0.3	0.2

表-648

注意：数値は recreation 発生の相対的指数として表-647の経験率小計値を示す。
したがって上表は4で除せば季節当り平均経験率となり、下表は2で除すと
旅行種当り平均経験率となる。

旅行型別実態	年収 階層	50万円 未満	100万円 未満	100万円 以上	教育 水準	初等	中等	高等
自然宿泊旅行		1.4	1.7	2.4		1.7	1.8	2.2
都市宿泊旅行		0.7	1.1	1.3		0.6	1.0	1.4
自然単日休養		2.4	2.2	2.2		2.4	2.4	2.1
都市単日休養		1.9	2.5	2.4		2.0	2.3	2.4
宿泊春季実態		0.6	0.7	0.9		0.6	0.7	1.0
夏季実態		0.6	0.9	1.1		0.6	0.7	1.2
秋季実態		0.7	0.8	1.2		0.6	0.9	0.9
冬季実態		0.4	0.4	0.5		0.5	0.5	0.5
単日春季実態		1.4	1.6	1.7		1.4	1.6	1.6
夏季実態		1.0	1.3	1.2		1.2	1.1	1.2
秋季実態		1.3	1.3	1.3		1.4	1.3	1.3
冬季実態		0.6	0.5	0.4		0.4	0.7	0.4

これにより経験率は階層別に収入の低いもので宿泊・単日旅行間にある2.1倍という差から、1.3倍と収入の高いもの程その差は接近するが単日休養の方が常に高いことが見られ、すなわち従来研究調査の盲点となっていた単日休養の位置認識が明らかとなる。

このほか、この統計表群によって、収入層別及び教育水準別における旅行 recreation 嗜好の型態別把握などが可能となるが、その紹介は別の機会にゆずる。

お わ り に

この研究は、「緑地レクリエーション」の研究を生活的視野から解明する試みの最初のものとして、その実態と家庭階層との関連について試みられた調査のまとめである。

いうまでもなく、最初の調査研究計画に対しても本報告に収めた成果は200余標本の分析にとどまって統計的信頼度・精度はともに必ずしも十分でなく、また分析手段も洗練の足りない所が多いと自省される。

したがって上述の標本分析に加えて約400標本0.2万人弱の分析が現在実施されているが、これは生活科学ないし家政学的視野からつぎのように行なわれる。

すなわち職業環境はこの報告と等しくしたが行為主体単位は家族という単位から家族員個人にかえ、所得については月収を家族数による消費単位（成年と15才未満の未成年で階層化する）で除したもので分類し、

教育水準では家長と個人にわけ両要因を分析指標とした上、希望する旅行 recreation 型、行為者の未成年・青年・壮年・老年という年令別、行為者がもつ自由生活費（pocketmoney）をそれぞれ指標に加え、

これによって本報告の旅行 recreation 16型を回数・日数・費用・行動圏（本報告「調査分析の手段」参照）に基く実態認識が意図されている。

この結果は回答不備のものを除いて上述の16型各個が、属性に関して $4^5 \times 3^2$ すなわち9216通りに、実態に関して480通りに分析され、その組み合わせは約4百万の事例を各型に認めることとなり、この

報告の約 0.2 万事例に関する分析に対して相対的に大きい研究の深化が可能になるものと期待される。

特にこれにあつては本報告の内容を別の視野から説明することとなるから、統計学的には所定の精度・信頼度をもつものとして分析されたこの報告内容が果して条件を充たした結果を収めているか、また実態において本報告で推定した行動圏域の問題、宿泊旅行では複日宿泊旅行圏が平均圏域であり、単日休養では単日休養圏が平均圏域に当り、それぞれ生態距離の対数値では 1.8 及び 0.8 が相当する、を直接分析すればどのような結果が得られるか、など両分析の関連問題として注目されよう。

終りにこの報告において強調すべきことは、緑地の計画的研究にあつて必要な recreation 実態の研究が従来はその実現の困難なために、緑地自体の調査のみに終る傾向を免れず、国民大衆に直接調査する分野については極めて不備であつて、若干の政府機関による調査例はあるものの国民全層の実態認識という意味では大きい偏倚を包含して、今後研究すべき問題の多いことである。

この報告はかかる問題を説明すべき試行として着手された研究の予報的意味をもつが、所得・教養階層及び職業階層の若干について、その実態を型態別・季節別に分析し、その日数・消費・行動圏及び普及率の問題に関するある程度の説明を果たしたと考える。

しかしながら、問題が極めて多岐であり、しかも国土計画的緑地計画に対してそれが重要な位置を占め、今後の研究にまつことの多い事実というまでもなく、その意味でもこの報告は予報的概説として今後発展を期する性質のものであることを強調しておきたい。

参 考 文 献

- 1) 近藤：「緑地レクリエーションの計画的研究 第1報」京大演習林報告36号（'65）
- 2) Outdoor Recreation Resources Review Commission: Outdoor recreation resources review, Washington（'66）
- 3) 総理府：観光白書（'64）
- 4) 経企庁：生活白書（'64）
- 5) 総理府：国民旅行世論調査報告書（'61）
- 6) 運輸省：運輸経済図説（'64）
- 7) 近藤：大山国立公園利用実態調査報告書（'59）
- 8) 近藤：「階層別に見た観光休養実態調査表」観光産業研究所レポート6巻46号
- 9) 近藤：「琵琶湖国定公園に対する recreation 需要」造園雑誌（'62），湖西志賀町観光診断報告（'64）
- 10) 岩田：「数理統計学とその応用」（'55）
- 11) 近藤：「自然公園の利用に関する研究……休養誘致率について……」造園雑誌（'64）
- 12) 近藤：「緑地レクリエーションの計画的研究各報」京大演習林報告36号以降（'65～）

Résumé

Recreations in greens are classified by with many habitation factors.

Depending on the range of tour, this may be ranked as minutes-trip and hours tour.

This report intends to study the latter, with interview researches of, sampled-hundreds families, on problems of recreational tourism's habitation.

Following indexes are used on family's classes (a) and tourism's habitation. (b)

(a) income, education, occupation

(b) times, days, expenses.

Each habitations are classified with indexes of tourism's types, such as natural resort recreation of day-trip and days-tour, and artificial resort's, and types of four seasons.

The writer already proposed certain function of resort's recreational effectivity in the reports of "Planning Studies of Receptions"; and the result of this one concurs with the function. now under consideration.

Besides above, this study itself must be understood as a study of fundamental structure of national recreational habitation in general.

The main results of this report is condensed as following tables;

Table-649

		Low Income (less ¥5×10 ⁵ /year)	Middle Income (less ¥10×10 ⁵ /year)	High Income (more ¥10×10 ⁵ /year)
Natural Resort (days tour)	days:	7.3	10.0	12.6
	expense:	1.1×10 ⁴ yens	2.3×10 ⁴ yens	3.8×10 ⁴ yens
Artificial Resort (days tour)	days:	3.3	4.0	6.1
	expense:	0.7×10 ⁴ yens	1.1×10 ⁴ yens	1.2×10 ⁴ yens
Natural Resort (day trip)	days:	4.8	5.8	7.4
	expense:	0.6×10 ⁴ yens	0.8×10 ⁴ yens	0.9×10 ⁴ yens
Artificial Resort (day trip)	days:	5.2	6.6	7.1
	expense:	0.6×10 ⁴ yens	0.7×10 ⁴ yens	0.8×10 ⁴ yens

Table-640

		Low Education (8 or 9 years education)	Middle Education (10 or 12 years education)	High Education (14 to 17 years education)
Natural Resort's tour and trip	days:	14.6	15.7	17.3
	expense:	2.4×10 ⁴ yens	3.2×10 ⁴ yens	3.8×10 ⁴ yens
Artificial Resort's tour and trip	days:	8.7	11.1	11.3
	expense:	1.3×10 ⁴ yens	1.9×10 ⁴ yens	1.9×10 ⁴ yens

With table-649, The relations of income and recreational tour are shown; as the low income class has less recreations, which results about 60% in days and about 45% in expenses comparing with the high income's.

But, this results mainly made by differences of tour's times not by each tour's qualitative habitation; i.e., the high income class makes more recreational tours and trips comparing with the low income's, but they don't consume more money or days in their tours and trips.

With table-640, the relations of education and tour's purposed resorts are shown; as the high education class has a tendency to visit the natural resort more than the artificial's; but this education factor is not so effective than the income's. expense factor does.

The Above results show only a part of this study, and a certain progress is expected with further analysis and researches.